

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100442		
法人名	株式会社 都紀		
事業所名	西与賀紀水苑		
所在地	佐賀市西与賀町高太郎183-1		
自己評価作成日	令和 6年 1月 15日	評価結果市町村受理日	令和6年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 6年 2月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内で結成している業務手順委員会主催の研修・勉強会や自施設での勉強会に参加し、知識と技術等の向上に努めサービスに活かせるようにしている。弊社のホームページにて活動内容を掲載し遠方に住まわれているご家族様や施設を探されている方へのアピールや、情報提供を行っている。
緊急時のショートステイの受け入れも行っている。西与賀公民館で開催の「ひらけごま」(月1回)に参加し**地域交流、関わりを持つ**ようしており、天気が良い日は**近所をお散歩**したり、**苑庭で野菜の収穫**を行ったり、また月1回は**バスハイク**で季節感を味わっていただし、**季節ごとのイベントやお楽しみ会**などを取り入れ1つでも多くの楽しみを持ってもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀平野の南部に位置し、周囲に田畑が広がる静かな環境の中にあるホームである。法人の中に業務手順委員会があり、年間を通した研修や勉強会を計画し実践されている。その効果もあり、職員の資格取得への意欲も高い。長年ホームを利用されている入居者が多く、平均年齢も高くなっている。職員は、グループホーム本来の目的をしっかりと理解し、地域との関りを積極的に持ち、日々の生活の中で入居者が力を発揮し、一人ひとりが楽しみをもって生活されるよう日々のケアに努められている。職員の離職率も低く、長年勤務する職員が多く、管理者・代表者を中心に、スタッフ間の関係の良さがホームの穏やかな雰囲気につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開所当初から継続し毎年、理念の確認を見直しを行い4月のオリエンテーションでスタッフと再確認をしている。入居者様本位に安心して生活が送れるように支援することを目指した理念の実践に繋げている。	理念はいつでも目に入るように、ホーム内に掲示され、振り返る機会とされている。ホーム理念と共に、年度初めにその年のホームの目標を決め、日々その実現に向け努力されている。長年勤務する職員が多く、理念を理解し、入居者が少しでも楽しく過ごせるよう理念・目標の達成に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ規制緩和に伴い少しずつ地域との関わりが増えてきている。運営推進会議や事業所での行事は出来ているが、法人全体ではまだ以前のように出来ていない。	公民館での行事に参加し、地域の子どもたちと定期的に交流したり、カフェに参加したり、徐々に地域との関わりが増えてきている。ホームがある地域の施設や保育園との交流も実施され、家族や友人との面会も、玄関のスペースで再開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された地域の方に認知症についてや苑の支援方針などの説明を行っている。また、外部より要請があれば地域住民の方々への説明や見学も応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・民生委員・自治会長・おたっしや本舗・地域の消防団の方に参加して頂き、苑の行事報告や予定など情報開示をしている。来苑の際には要望・助言などを基にサービスの質の向上に努めている。	2ヶ月に1回、家族・民生委員・自治会長・消防団・市からの出席のもと開催されている。ホーム行事の報告にとどまらず、意見や助言を聞く等、サービス向上に努めると共に、認知症への理解を得る機会としても捉えられ、活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で情報交換や毎月の苑だより、報告書を各関係機関へ郵送している。おたっしや本舗のネットワーク会議などに参加し協力関係を築けるように取り組んでいる。	市とは、運営推進会議への参加、ホーム便りの配布、空き状況の報告、研修等の情報提供等、良好な関係が構築されている。特に、地域包括支援センターとは、ネットワーク会議やカフェへの参加、入居者の紹介等も行われ、相談できる関係が築かれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束を行わない方針である。 3ヶ月に1回定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催しスタッフ全員でケアを振り返り身体拘束に繋がる恐れがないか検討している。	身体拘束については、内部及び外部の研修に参加し、身体拘束とは何か、拘束がもたらす弊害等を理解する機会を設けられている。気になる事があれば、その都度管理者、職員同士で注意しあい、理解を深める機会とされている。身体拘束適正化検討委員会も設置され、日々のケアの振り返りが行われている。玄関の施錠を含め、現在拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑での勉強会に参加し毎日を振り返り見直しを行っている。日々のケアの中で気になる事は、お互いに指摘し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設での勉強会で権利擁護や成年後見制度について学べる機会を持ち知識を高めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に入居者様と家族様の要望・ご意見を伺い意向に添ったサービスが出来るように話し合い理解と了承を得ている。また、契約内容の改定の際には説明を行った上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情窓口を玄関に設置 年に1回アンケートを実施し、ご家族様や入居者様からのご意見・ご要望は家族会で報告し運営やケアに反映させるようにしている。	面会時、運営推進会議・電話連絡の折りに意見や希望を聞くよう努められている。年1回のアンケートも実施され、家族会開催時に、意見や要望・アンケート結果の報告が行われている。出された意見は、できるだけ運営や日々のケアに活かすよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中やケア会議中に出た意見や提案は代表に申し入れ検討したり、スタッフが代表と話せる親睦会や食事会を行える機会を設けまた、毎年の自己評価で個別面談を行い出た意見は運営やケアに反映させるよう努めている。	管理者・代表者は、日々の関りの中、会議・親睦会・食事会、個別面談の機会を通し、積極的に職員からの意見や要望を聞くよう努められている。聞き取った意見等は、検討を行い、運営に活かせるものは随時反映されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年自己評価を行い個人面談を行っている。個々の努力・実績・勤務状況などを把握しモチベーションが高く勤務してもらえるような配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状態や会議等での発言などでスタッフ一人一人のケアの実状と力量の把握に努めている。資格取得に向けた研修会への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ規制緩和で少しずつ交流が増えて地域交流や研修、勉強会に参加できるようになり、そこで得た情報・知識をスタッフ全員で共有しケア、サービスの質を向上させて行く取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談をし家族様・CMから情報を得る事で少しでも安心して入居して頂ける様にしている。不安な事や要望などを傾聴し表情や行動などから気持ちを汲み取り安心してもらうような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様より入居前の状態や心身状態を聞き問題になっている事を明確にした上で可能な限り要望を実現できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会の際、現在困っている事や入居者様が何が必要であるか課題をみつけサービス利用を含めた対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴やアセスメント、日常の言動から入居者様の役割を考えケアに取り入れた上で暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や状態変化時には家族様への報告を行い行事などに参加して頂き一緒に過ごせる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回のバスハイクやドライブでは入居者様の自宅周辺や馴染みの場所にお連れしている。地域の行事へ積極的に参加し交流が途切れないようにしている。	家族との面会、公民館行事を通じた地域の子ども達との交流、カフェへ参加、そのほか親族の法事への出席等も支援されている。入居者の希望に応じ、行きつけだったデパートでの買い物、自宅周辺へのドライブも実施され、馴染みの関係の継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席など入居者様の意向・相性などを配慮している。スタッフが入居者様の間に入り、より良い関係が得られるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了されてからも相談などあれば可能な限り対応し経過のフォローや情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、朝の会・体操時などに個別に要望を伺い実践に繋げる取り組みを行っている。意思疎通が難しい入居者様に関しては表情や仕草から想いを汲み取ったり入居者様の想いに寄り添ったケアになるように検討している。	入居者の一日の希望や思いを把握する場として、朝の会が毎日実施され、その日のレクリエーション・外出・献立等に反映されている。一人ひとりの思いを、会話の中から引き出すよう努められ、入居者を中心に置いたケアの実践に繋がるよう、職員間でその思いを共有されている。聞き取りが困難な場合は、これまでの暮らし方・表情等から思いをくみ取るよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や基本情報をスタッフ全員が把握できるよう指導している。新しい情報についても送りノートを活用して共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活状況を観察し残存機能が最大限に発揮できるようプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMが毎月モニタリングを行いケア会議などで検討している。入居者様、家族様の意見・要望を聞き取りプランに反映させている。	事前に本人・家族から意見・要望を聞き取り、入居者の担当職員からの意見も取り入れた計画が作成されている。毎月のモニタリング・アセスメント・評価・担当者会議を行い、状態変化に応じ、適切な見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の記録の色分けをし、その日の状態・支援経過は個別に分かるように記録している。ケア会議時に個別支援を検討しスタッフ間で共有し介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズを柔軟に対応できるように朝の会時などに思いや願い、やりたい事などを個別に聞き出し実践に繋げる支援をしている。近所の甘味処まで散歩し好きなお菓子を購入したりと出来ることに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ規制緩和に伴い少しずつ地域の行事へ参加し交流出来るようになり近所を散歩したり苑の畑で野菜を育て収穫など豊かな暮らしができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院の説明を行い主治医変更などは入居者様、家族様の希望を重視している。他のかかりつけ医を希望される場合は、他医療機関と連携を取り適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に協力医療機関の説明が行われ、元のかかりつけ医を含め、希望する医療機関の下で、適切な医療が受けられるよう支援されている。受診は家族対応であるが、医療情報を共有し、主治医との連携を図り、安心して生活ができるよう対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制を取れる24hいつでも看護師と連絡がとれるようにしている、また週1回看護師が勤務し入居者様の状態把握や相談を行い指示・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の指示に従い、入居者様の体調や経過を見極め退院に向けた話し合いを含め行っている。協力病院との連携を図り関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて契約時に説明を行い意向確認を行っている。状態が変化した時は家族様や主治医と方針を共有し入居者様や家族様の思いを尊重した看取りケアに移行しチームでの支援に取り組んでいる。	入居時にホームでできる事を説明され、同意を取られている。状態変化時は、初期面談を主治医が行い、希望されればその時点から看取りケアに移行し、入居者・家族の意向を踏まえ、関係チームで連携し対応されている。職員への看取りに関する研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフがマニュアルを基んに対応出来るようにしている。また、入居者様の急変時に備えて救命救急講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の消防団の立ち合いのもとで、昼夜想定での消防訓練を年2回実施している。避難方法や避難場所の確認もできおり緊急連絡網を作成し、防災対策もスタッフ間で周知している。	年2回夜間想定避難訓練が、消防署(春)消防団(秋)の立会いの下実施されている。通報・消火訓練も同時に行われ、避難後の見守り役として、自治会長・民生委員の協力も得られている。その他、災害のマニュアル、BCP(業務継続計画)も作成され、職員間で共有されている。非常時に備え、お茶・水・米等も備蓄されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助時は勿論のこと日々の会話でも言葉遣いや声のトーン・タイミング等に気を付け心がけ毎年プライバシーに関する勉強会を実施している。	言葉遣い、入浴や排泄の際の羞恥心への配慮といった、プライバシーに関する研修を毎年実施されている。日々のケアの中でもそれらの対応は意識化され、管理者・代表者を中心に、気になる対応があれば、その都度注意する等振り返りが行われている。記録物等は適切に管理、保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したい事や食べたい物等を伺い上手く表現できない時は導き出せるような問いかけをし一人一人の思いを聞き出し希望を実践するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話・関わりを大切にし、1人1人の体調や希望・意思等配慮しながら、その人のペース、タイミングで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し散髪をしてもらい希望があればヘアカラーもお願いしている。また、連日同じ様な洋服にならないよう気を付けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや料理の盛り付け等を出来る方には手伝って頂いている。旬の物を取り入れ、それにまつわる会話を楽しんだり食事の片づけなどを入居者様と一緒にしている。	食事はホームで作られ、準備の段階から、根とり・つぎわけ・おしぼりまき・食器拭き等、入居者の状態に応じた役割を設けられている。旬の物を取り入れ、季節感を出すよう配慮されると共に、誕生会・新年会・クリスマス会等季節の行事食も用意され、食事が楽しみなものとなるよう工夫されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状態に応じた食事形態を考慮し提供している。食事量、水分量のチェックを行い摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る事は、してもらい磨き残しは支援を行い、うがいが難しい方にはスポンジブラシを使用し口腔内に残渣物の無いようにしている。定期的にポリドントで義歯の洗浄をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄リズム、一人一人のパターンを把握しトイレ案内、誘導に努めている。自立支援の為、出来る事はおこなってもらい、体を動かし排泄を促し支援している。	排泄パターンを把握し、トイレへの誘導が行われている。ズボンの上げ下ろし等、一連の排泄の動作の中で、できることを尊重し、できない部分の介助に努められている。排泄の自立に向けた支援により、リハビリパンツから布パンツに変わったり、立ち上がりや移動がスムーズになったりといった効果が得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行練習や毎日のTV体操などの運動に取り組んでいる。水分確保のため言葉かけを行い1ℓ/日以上確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上が基本であるが、その日の体調に合わせて入浴して頂いている。また、入浴が苦手な方には、タイミングを見て声をかけたり、清拭等で対応している。出来る限り入居者様の意向に添いながら気持ちよく入浴できる環境になるよう努めている。	毎日入浴が実施され、拒否があっても週3回は入浴できるよう、支援されている。一人ひとりがゆっくり入浴を楽しむ事ができるよう、入浴時間の制限はなく、好きな時間帯に、同性介護を基本とし対応されている。ゆず湯・しょうぶ湯といった、季節の楽しみも用意されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠に繋がるよう日中の活動と休息のバランスが取れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月のケア会議や申し送りノートを確認し薬の変更等の把握につとめている。内服薬の変更があれば、その後の症状の変化などに留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話から聞き出している無理のない範囲で個々に出来る事や得意とする事、好きな事を楽しく取り組んでもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のバスハイクや季節ごとのイベントなど入居者様の希望を汲み取りながら計画し実践している。個別の散歩やドライブにも出かける機会を設けている。	ホーム周辺の散歩・自宅周辺及び近隣へのドライブ・季節の花見等、入居者の希望や状態に応じて、短時間でも外へ出る機会をもつよう日々努められている。また、初詣は、家族も含め入居者全員で出かける機会となり、入居者・家族と一緒に外出を楽しむ時間も設けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て苑が管理している方もいらっしゃる。本人の希望があれば必要に応じて家族の同意を得て購入の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の希望があれば電話を取り次いでいる。お手紙などが届いた際は本人様に手渡し内容が分からない方にはスタッフが読んで説明している。また年賀状を家族様宛に出したりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはイベントで撮影した写真や入居者様と作成した貼り絵などを掲示し、加湿器を2台設置し湿度調整をして居心地の良い空間づくりを行っている。	居間には、入居者が作成した季節のちぎり絵・イベントの写真が数多く飾られている。全員で出かけた初詣の大きな写真は、どこからでも見ることができ、全員で共有する思い出となっている。温度・湿度・照明は職員が適切に調整し、刺激となるような音や光、臭いもなく、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が話しやすいようにソファを用意し入居者様同士で、おしゃべりをしたり好きな歌番組を視聴したり思い思いに楽しんでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の写真・昔の家族写真やイベントで撮影した写真などを壁に掲示している。自宅で使用されていた家具などを持ってきていただいたり馴染みの居室空間となるように工夫している。	ソファやぬいぐるみ・写真・使い慣れた湯飲みや箸等、入居者の好みの物・馴染みの物が持ち込まれている。入居者が安心して過ごせるよう、家族からの情報も参考にしながら、家具の配置、飾りつけ等を工夫し、安心できる環境を整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を把握し個々の目線・動線に合わせて、トイレや居室などの文字などを表示し一人で出来るように取り組んでいる。お知らせやカレンダーなどを活用し自立した生活が送れるようにしている。		